２０２１年度　看取りの振り返り

この１年間でひさまつクリニックが関わる中、逝去された患者さん方の振り返りを行いました。旅立たれた患者さんは、３６名でした。

昨年に引き続き、最後までご自宅で過ごされる患者さんの割合は高く、６４％でした。
また治療を続けていらっしゃる患者さんが少なかったことも印象深い傾向でした。
要因として

１　コロナ禍によって治療病院では面会が許可されない状況が続いており、
　　面会が制限される中で治療を続けるか、あるいは治療を中止して緩和ケアに
　　移行し家族と時間を共有しながら過ごすか、はっきり決断する必要があった。

２　治療継続希望の患者さんについて、私共ひさまつクリニックが慎重に対応した。
（訪問診療に対して、本人・家族・主治医の積極的な希望がある方のみ介入した）

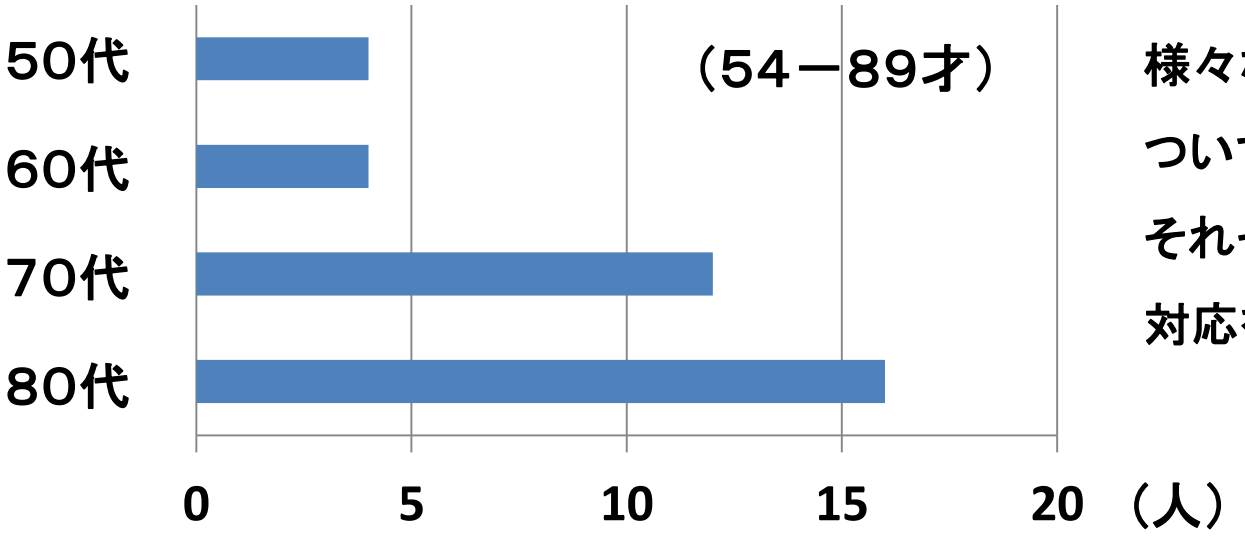
ことが大きかったかと考えられます。

今後もさらに皆さまのお役に立てますよう研鑽を積み、平和会内および鹿児島市内各事業所と日頃の業務や勉強会で質の高い連携を深めていきたく存じます。

私共でお役にたてることがありましたら、どうぞ声をおかけください。

令和４年６月１０日　　ひさまつクリニック診療部・田中千恵

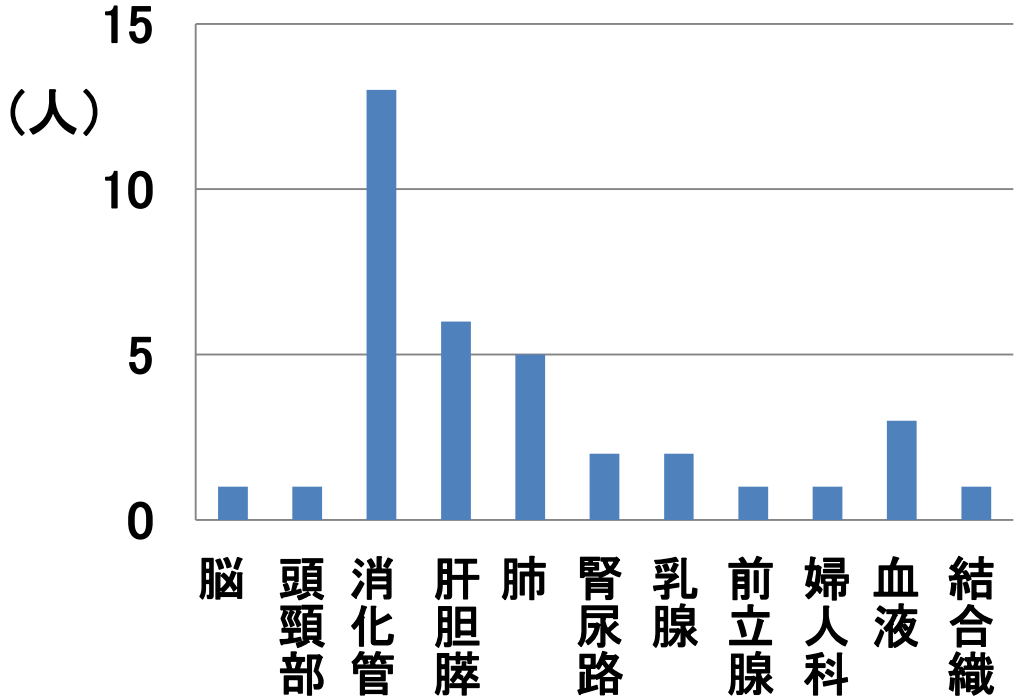
年齢



様々な年齢層の患者さんについてご依頼いただいておりそれぞれのニーズに合わせた対応を心掛けています。

原発巣

原発巣の部位に関わらず症状緩和治療を行います。必要に応じて、専門医と連携しながら対応しています。

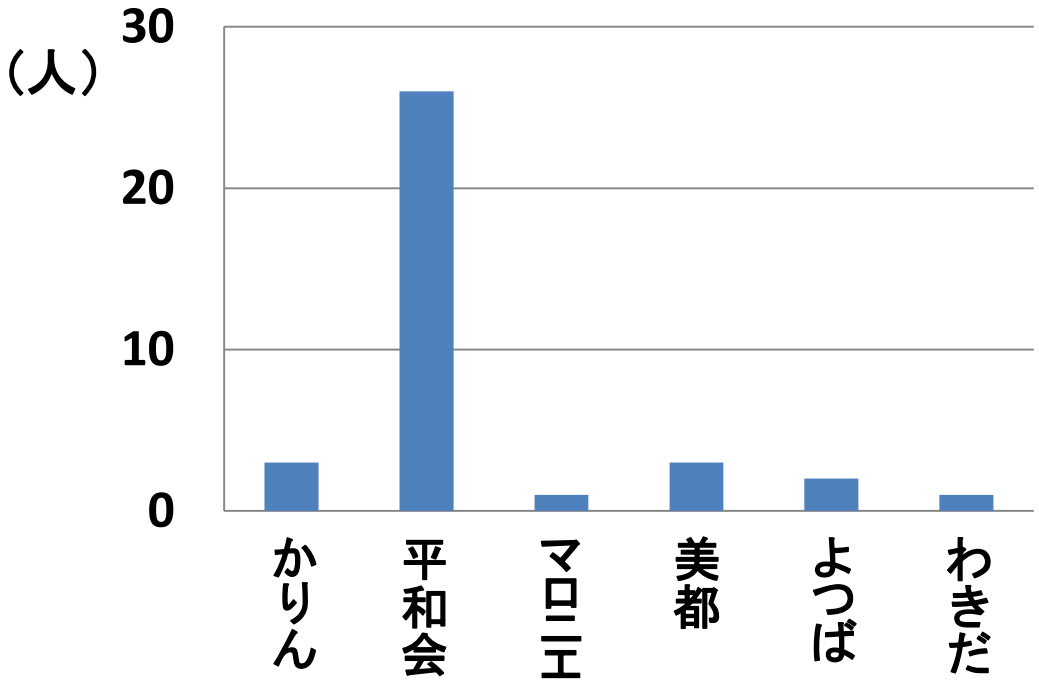


療養の場

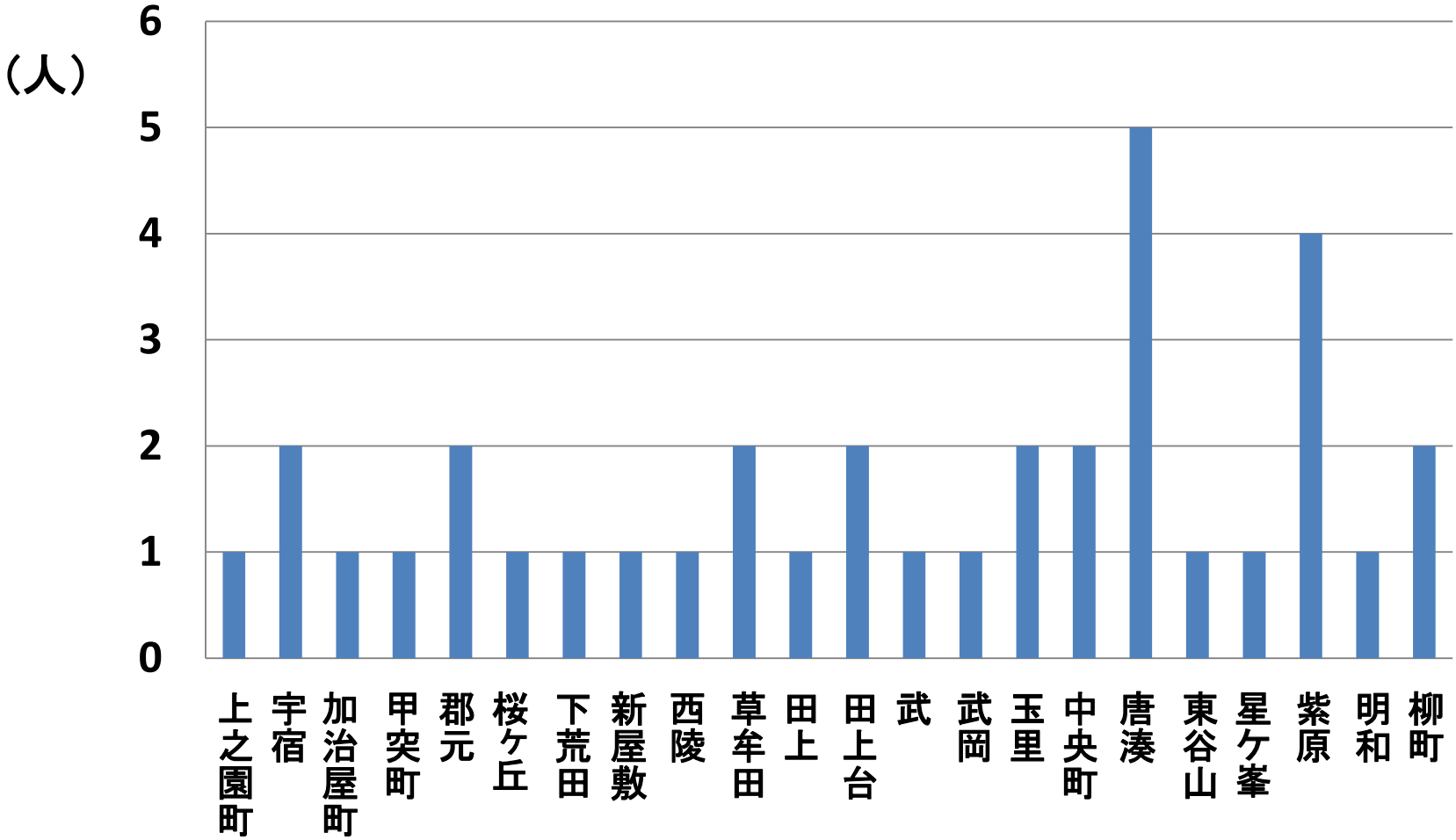
今回は皆さんご自宅で療養されている方々でした。
介入可能な施設への訪問診療も行います。

訪問看護ステーション

鹿児島市内の様々な事業所と密に連携し、
質の高い医療サービスを提供できるよう心がけています。

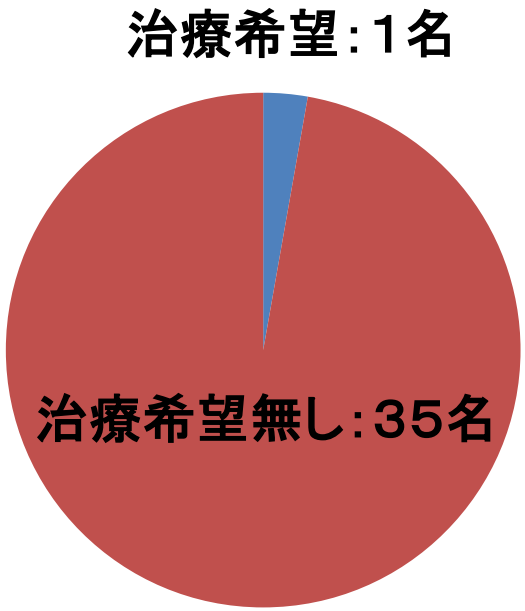


住所

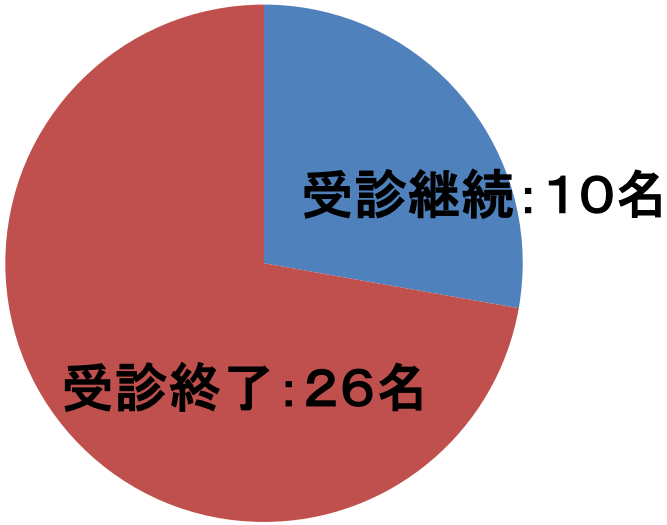


旧喜入町、旧桜島町を除く鹿児島市内で、診療介入可能か検討します。

治療希望の有無



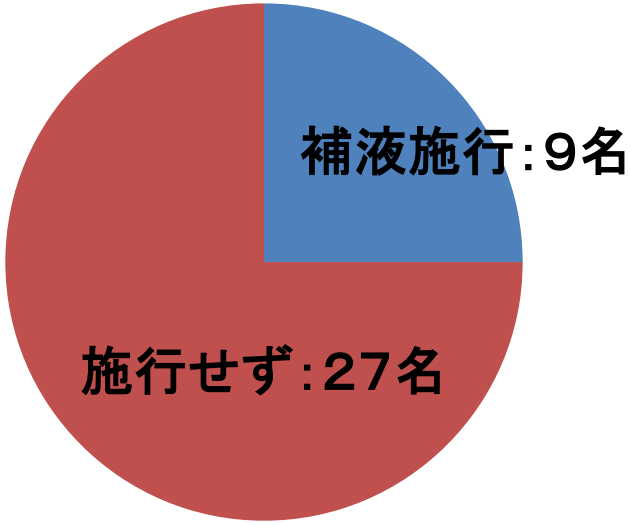
治療病院受診継続の状況



標準的がん治療の適応があり、治療継続される場合、
治療病院と連携して診療を行う場合もあります。
治療中止していても外来受診希望有れば、
診療情報を提供しつつ連携しています。

経口摂取

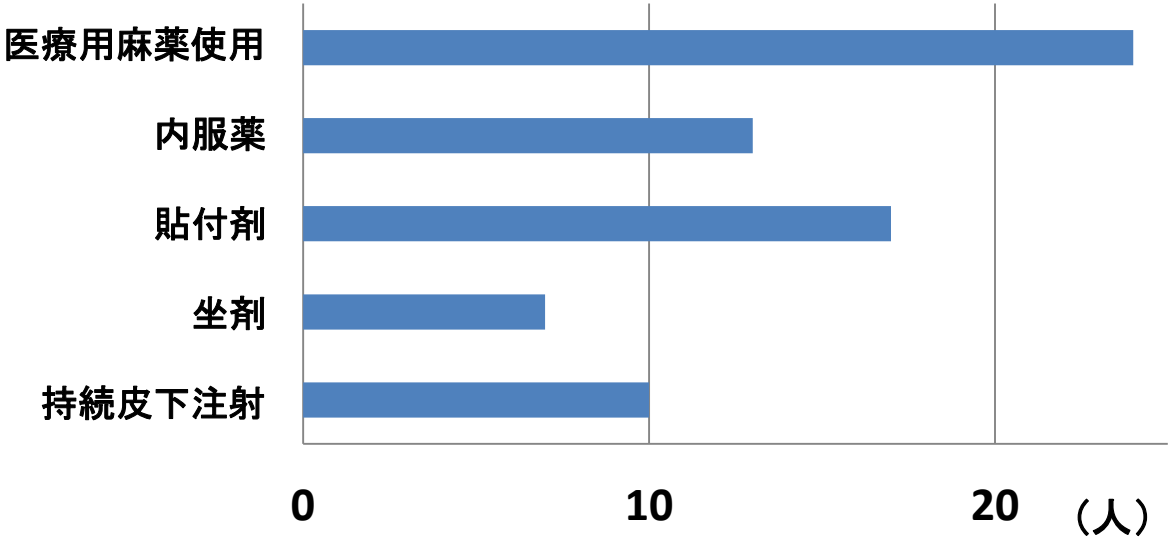
補液施行状況



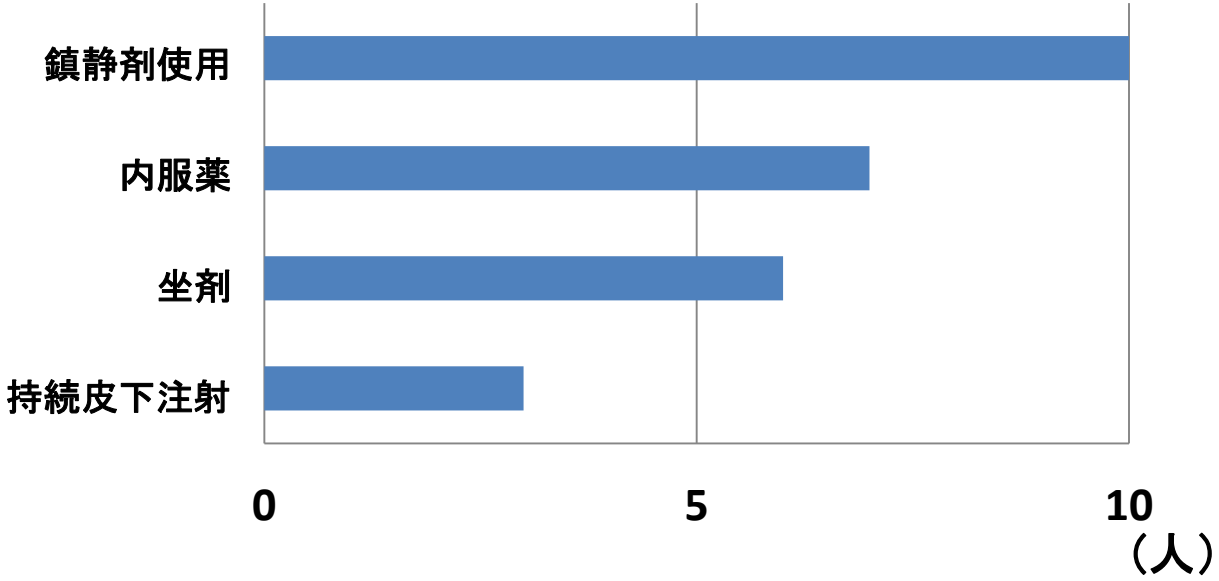
なるべく何らかの形で経口摂取できるよう工夫します。
誤嚥のリスクが高い方は、食事の形態の工夫、口腔ケアブラシに
水分を含ませ口の中をぬぐうといった方法をとっています。

補液（点滴）を行ったほうがよりよく過ごせる場合や
ご本人・ご家族から点滴希望があった場合、
量ややり方に気を付けて行っています。

医療用麻薬使用状況（複数回答あり）

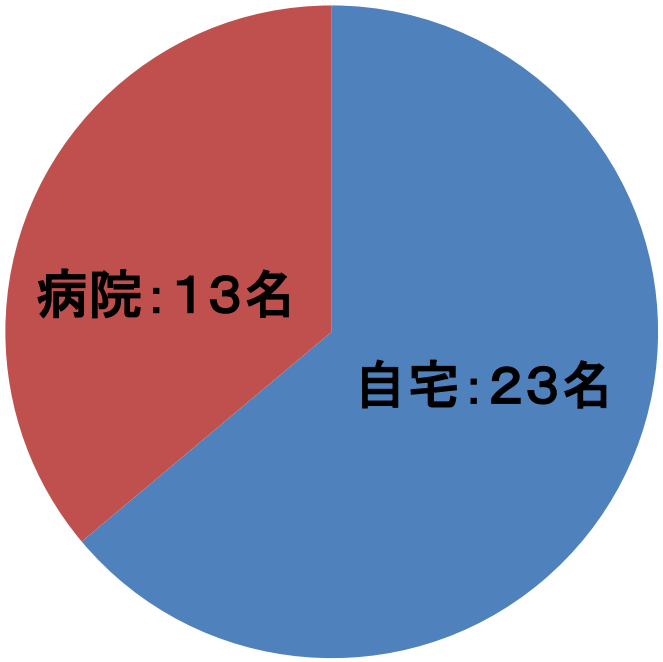


鎮静状況（複数回答あり）



患者さんの状態を
拝見しながら
なるべく患者さんや
ご家族のお考えに添う
方法で、
痛みや息苦しさ、
きつさを和らげる方法を
工夫します。

看取りの場



なるべく自宅で過ごしたいという方が多く、
治療・ケア・各種サービスの介入・工夫によって在宅療養をサポートしています。

場合によっては入院の方がよりよく過ごせると判断される場合もあり、
あらかじめ緩和ケア病棟のある病院の緩和ケア面接を受けていただき、
必要時は（一時的な入院の場合も）スムーズに入院できるよう連携を図っています。